

講演：「岸壁係留船舶の津波来襲時の安全性と港外避難について」

(第65回月例会)

■講演概要等

巨大地震の発生によって都市港湾への津波来襲が予想される場合に、岸壁係留船舶においては、港湾内で係留強化を行ってやり過ごすか、緊急離岸して港外避難を行うかを判断する必要がある、この問題を船舶工学の立場から検討された。

係留強化については、南海トラフ地震発生時の大阪港を想定し、係留船舶が津波流を受ける際の流体力を模型実験で計測、係留索が耐えうる最大値を相当風速として導かれた。

また、緊急離岸については、離岸時に岸壁影響として知られる大きな吸引力が働くため、この影響を見積もる簡易推定式を模型実験により導き、岸壁影響が緊急離岸時間に及ぼす影響について調査された。

さらに、離岸後に津波が来襲する中で港外まで避難する状況を想定し、津波中を航行する際にどのような力が船舶に作用するのか、押し波と引き波に分けて模型実験が行われた。

本講演では、これらの検討結果について詳しくご紹介いただく。

講師の橋本先生は、大阪大学大学院工学研究科の博士課程を修了され、工学博士号を取得された後、同大学大学院工学研究科船舶工学講座助教として勤務、アメリカ アイオワ大学在外研究、フランス ナント中央理工大学在外研究を経て、神戸大学大学院海事科学研究科准教授に就任され、現在は、同大学海洋底探査センターに所属し、観測システム部門長を務めておられる。先生は、船舶の安全性評価の第一人者のお一人で、IMOでの復原性基準の改正等にも貢献されている。

■講師

講師 神戸大学 海洋底探査センター／大学院 海事科学研究科
准教授 工学博士 橋本 博公 (はしもと ひろただ) 先生

■開催日時

令和元年5月27日(月) 15:00～16:30頃まで

■開催場所

起業プラザひょうご セミナールーム
神戸市中央区雲井通5丁目3-1 (サンバルビル 6階) 電話 078 (862) 5302



■主催

公益社団法人 神戸海難防止研究会 (担当：江頭又は藤原)
電話 078 (332) 2035

入場無料 ご自由にお入りください！(定員50名)